

# 平成15年度 決算報告

# 市が使ったお金です

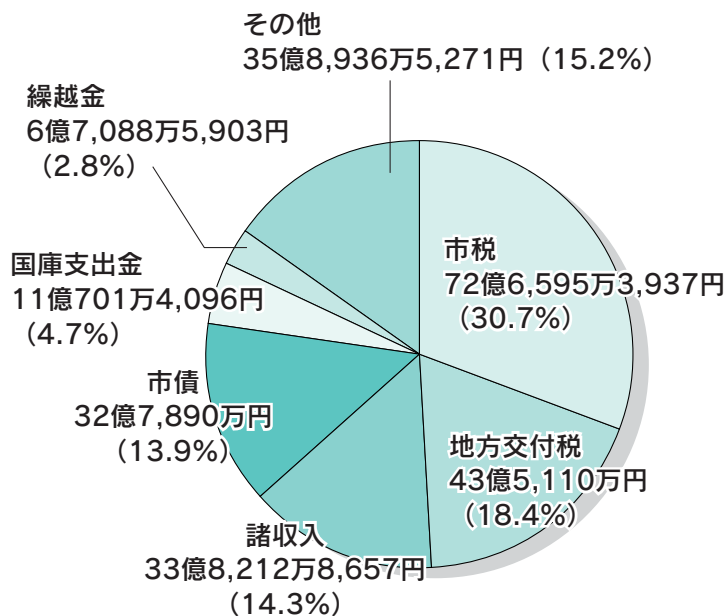
平成15年度の一般会計・特別会計・企業会計の決算が、第7回市議会定例会で認定されました。

平成15年度には、「活力の創出」の実現に向け、引き続き「人口増対策」に重点を置いた予算を執行しました。

これからのまちづくりのため、市がどのようにお金を使っただのかをお知らせします。

## ● 一般会計歳入の内訳

( ) は構成比



**歳入 236億4,534万7,864円**

## 一 般 会 計

一般会計は、実質収支（事業などの進み具合によって、次の年へ予算を持ち越す繰越金を差し引いた額）で6億7565万円の赤字となりました。

これは、厳しい経済情勢の中で事業の選択、経費の節減などに市民のみなさんのご理解ご協力をいただいた結果だといえます。

### 歳入

歳入決算額（市へ入ったお金の合計）は、236億4534万7864円で、前年に比べ11億6441万5円、4.7%の減となりました。

### ◆市税

歳入のトップを占める市税は、最も重要な財源です。

市税には個人・法人市民税、固定資産税、軽自動車税、市たばこ税、入湯税、都市計画税があります。

平成15年度は、個人市民税、固定資産税の減少が大きく、前年度

に比べ3億5692万4713円4.7%の減となりました。

一世帯当たりの個人市民税負担額は、11万3416円でした。（平成16年4月1日現在の2万132世帯で決算額を割って計算）

### ◆地方交付税

市税に次いで構成比の多い地方交付税は、国から交付されるお金で、使い道が制限されていません。額は、その自治体の財政力によって決められます。

前年度に比べ8266万4千円の増となりました。



諏訪湖ハイツ 温泉リハビリ施設（歩行プール）



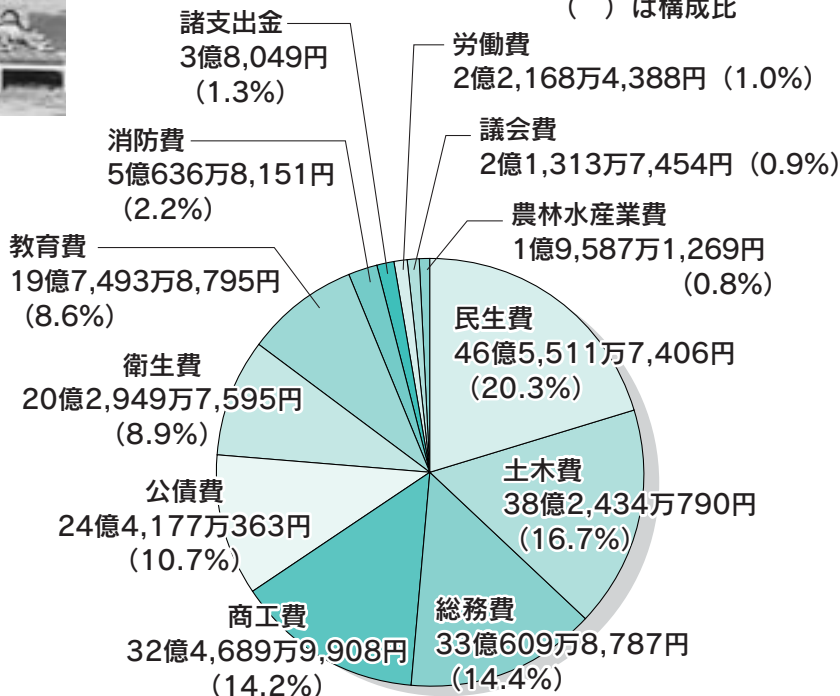
おかや総合福祉センター「譚訪湖ハイツ」が福祉と生涯学習の機能を合わせた施設として、子どもから高齢者、障害者健常者を問わず、様々な人がふれあい、交流する地域福祉の総合的拠点施設としてオープンしました。

◆市債  
建設事業などで多額の財源を必要とするとき、一定のルールのもとに借り入れる重要な財源です。

◆国庫支出金  
土地区画整理事業などの特定の事業に対して、国から補助されるお金です。前年度に比べ、3258万5192円の減となりました。

## ● 一般会計歳出の内訳

( ) は構成比



歳出 229億1,573万2,955円

◆歳出  
歳出決算額(市が使ったお金の合計)は、229億1573万2955円です。前年度に比べ12億2313万9011円、5.1%の減となりました。市民一人当たりで使われた平均額は、41万3105円となりました。主な施策事業は次ページののとおりです。

道路や下水道などの施設、学校や福祉施設などの建物は長い期間の利用ができますが、今、利用する人ばかりでなく、将来使う人々へも負担を求めることで、世代間の負担の公平化が図られるというのが、市債の基本的な考え方です。平成15年度の市債については、総合福祉センター整備事業、道路整備事業等を行い、総額では前年度に比べ5億693万6千円の増となりました。

なお、歳出における公債費は、各年の市債を年次計画に従って返している額のことです。

今までに市が借入れた額の累計となる平成15年度末の市債残高は、268億4917万円となります。

ただし、この内の約54%は、地方交付税として財源が補てんされる有利な借り入れで、他にも国の支出金などで補てんされているものなど、これからの負担が苦しくならないように努めています。

### 主な基金の種類と積立金

名称	金額
財政調整基金	11億6,793万9,355円
社会福祉施設整備基金	8,746万8,581円
市営住宅整備基金	3億8,518万1,080円
工業技術振興基金	2億4,002万3,716円
ふるさとまちづくり基金	26億8,174万2,658円
減債基金	7億3,996万9,152円
文化会館事業基金	4億1,645万8,496円
地域福祉基金	3億8,010万3,849円
みどりを愛する基金	7,001万6,808円

◆基金  
市が大きな事業を行なうときは、単年度にばく大な資金が必要となります。しかし、市の予算の中で、市民生活を守るための経費を削つてまで、その事業に多額の投資をすることはできません。市民生活に影響を及ぼさないように大きな事業を行うための蓄えが基金です。

基金は、市が将来を展望した個性あるまちづくりを進めるために、計画的に積み立てられています。基金の設置は、市の条例により定められており、その目的以外に使うことはできません。

現在、岡谷市には15種類の基金があり、平成15年度決算では、総額65億4207万1千円余りが積み立てられています。

## 平成15年度 主な施策事業

(金額は1万円未満四捨五入)

<b>【民生費】</b>	
◇新あやめ保育園建設事業	6億547万円
◇介護老人福祉施設整備補助事業	6,380万円
◇3歳以上の第3子以降保育料無料化事業	4,482万円
<b>【土木費】</b>	
◇道路新設改良事業	5億2,644万円
◇岡谷駅南土地区画整理事業	10億6,449万円
◇都市計画道路整備事業	3億2,419万円
<b>【総務費】</b>	
◇総合福祉センター整備事業	7億8,075万円
<b>【商工費】</b>	
◇シルキーバス運行事業	3,375万円
◇中小企業金融対策事業	26億4,712万円
◇太鼓道場整備事業	1億2,993万円
<b>【衛生費】</b>	
◇高齢者インフルエンザ予防接種事業	1,743万円
◇不妊治療助成事業	257万円
<b>【教育費】</b>	
◇小中学校校舎整備事業	9,525万円
◇私立幼稚園就園助成事業	1,488万円
◇市営岡谷球場整備事業	1億1,471万円
<b>【消防費】</b>	
◇消防水利整備事業	2,975万円
<b>【労働費】</b>	
◇雇用促進対策事業	1,073万円
<b>【農林水産業費】</b>	
◇農道水路・林道整備事業	2,270万円



市内にある保育園では最も古かった「あやめ保育園」が多様化する保護者のニーズに対応した特別保育の充実と、子育て支援ルーム等を設置し移転新築しました。



観光資源である和太鼓の伝承発展および芸能音楽文化等の推進を図り、市民のみなさんの憩いの場として、旧社会福祉センターを整備し「岡谷太鼓道場」としてオープンしました。



老朽化して長年の懸案だった丸山橋が、岡谷駅南土地区画整理事業の一環として架け替え工事が完了し、地域間交流や産業発展の期待を受け生まれ変わりました。

### ■起債制限比率 7.7%

(県下17市4位)

公債費負担を示す指標で、地方交付税による財源措置を除いた一般財源に占める地方債償還額の割合を示すものです。20%を超えると地方債が制限されます。

14年度 … 8.0%

13年度 … 8.4%

### ■財政力指数 0.664%

(県下17市7位)

財政力の強弱を示すもので、一般財源必要額に対して市税等の一般財源収入額がどの程度確保されているかを図ります。1に近くあるいは超えるほど財源に余裕があるものとされ、国から地方交付税が交付されません。

14年度 … 0.655

13年度 … 0.639

### ■経常収支比率 81.6%

(県下17市11位)

市税や地方交付税などの一般財源に占める、人件費、公債費などの経常的経費の割合を示すものであり、財政構造の弾力性を判断する指標です。

14年度 … 79.9%

13年度 … 75.4%

岡谷市の財政状況は？

# 市民一人当たりに使われたお金 (一般会計歳出) 41万3,105円

参考：市税一人当たり13万984円

民生費 8万3,919円	土木費 6万8,943円	総務費 5万9,600円	商工費 5万8,532円	公債費 4万4,018円	衛生費 3万6,586円
教育費 3万5,602円	消防費 9,128円	諸支出金 5,408円	労働費 3,996円	議会費 3,842円	農林水産業費 3,531円

## 特別会計

会計名	収入済額	支出済額
国民健康保険事業	38億7,324万2,595円	38億1,902万9,540円
地域開発事業	2億8,114万1,547円	11億9,402万7,252円
公団分収造林事業	910万8,676円	843万1,847円
交通災害共済事業	4,850万9,550円	814万5,354円
霊園事業	2,267万0,504円	978万2,400円
老人保健事業	51億9,262万5,434円	51億8,093万2,719円
温泉事業	3,634万4,083円	2,065万8,170円
訪問看護事業	7,415万5,579円	3,577万9,766円

## 企業会計 (収益的収入および支出)

会計名	収入額	支出額
岡谷病院事業	42億5,183万8,825円	41億9,950万6,623円
塩嶺病院事業	37億9,482万4,451円	37億6,924万3,057円
水道事業	9億8,894万5,729円	9億0,237万5,681円
下水道事業	19億2,183万9,704円	18億4,312万7,651円

H16.4.1現在

人口	55,472人
世帯数	20,132世帯

### 特別会計とは…

特定の事業を行う場合または特定の収入で事業を行う場合に、経理を他の会計と区別する必要があるため、法律や条例に基づいて設置しているものです。

### 企業会計とは…

特別会計のうち原則市税を収入財源とせず、独立採算制を迫及する極めて企業的色彩の強い事業を行う場合に、地方公営企業法の規定を受けて設置する会計です。一般会計やその他の特別会計とは異なり、民間企業と同様の経理を行うものです。

# 普通会計のバランスシート

(平成16年3月31日現在)

(単位：百万円)

## 岡谷市(普通会計)のバランスシート

岡谷市がこれまでに整備した公共施設や、基金など岡谷市の資産はどのくらいか？  
施設整備などのため使われた税やこれからの負担となる借入金などの債務はどのくらいか？  
これら資産と負債の状況を表すための報告書がバランスシート(貸借対照表)です。

### 「後世へ引き継ぐ市の社会資本」と「債務返済の財源」

資産の部	15年度末	14年度末	増減
1. 有形固定資産	78,150	76,175	1,975
(1) 総務費	7,698	8,061	△363
(2) 民生費	4,234	2,970	1,264
(3) 衛生費	2,463	2,644	△181
(4) 労働費	160	175	△15
(5) 農林水産業費	585	605	△20
(6) 商工費	1,960	1,908	52
(7) 土木費	39,767	38,684	1,083
(8) 消防費	487	521	△34
(9) 教育費	18,410	18,455	△45
(10) その他	2,386	2,152	234
(うち土地)	23,997	23,512	485
2. 投資等	6,280	6,473	△193
(1) 投資及び出資金	932	933	△1
(2) 貸付金	0	0	0
(3) 基金	5,348	5,540	△192
① 特定目的基金	4,457	4,670	△213
② 土地開発基金	714	714	0
③ 定額運用基金	177	156	21
(4) 退職手当組合積立金	0	0	0
3. 流動資産	3,217	3,476	△259
(1) 現金・預金	2,651	2,980	△329
① 財政調整基金	1,168	1,164	4
② 減債基金	740	1,136	△396
③ 歳計現金	743	680	63
(2) 未収金	566	496	70
① 地方税	499	440	59
② その他	67	56	11
資産合計	87,647	86,124	1,523

### 「後世の負担となる市の債務」

負債の部	15年度末	14年度末	増減
1. 固定負債	25,582	24,616	966
(1) 地方債	23,346	22,565	781
(2) 債務負担行為	0	0	0
① 物件の購入等	0	0	0
② 債務保証又は損失補償	0	0	0
(3) 退職給与引当金	2,236	2,051	185
(4) その他	0	0	0
2. 流動負債	1,910	1,755	155
(1) 翌年度償還予定額	1,910	1,755	155
(2) 翌年度繰上充入金	0	0	0
負債合計	27,492	26,371	1,121

### 「国・県等による施設整備支援」と「これまでの一般財源の累計」

正味資産の部	15年度末	14年度末	増減
1. 国庫支出金	8,468	8,425	43
2. 都道府県支出金	1,193	1,115	78
3. 一般財源等	50,494	50,213	281
正味資産合計	60,155	59,753	402

負債・正味資産合計	87,647	86,124	1,523
-----------	--------	--------	-------

(注) マイナスについては、△表示しています。

## ● バランスシートの基本事項について

- 対照となる会計の範囲……①一般会計 ②公団分収造林事業特別会計 ③霊園事業特別会計  
※以上3つの会計を普通会計といいます。
- 作成基準……総務省の作成基準に準拠し作成しています。
- 対象期間……平成15年度 平成15年4月1日から平成16年3月31日までの期間  
※ただし出納整理期間中(平成16年5月31日まで)の現金の出入りを含みます。
- 資産の収集範囲…昭和44年度以降の決算統計により集計しています。
- 資産評価の方法…取得原価主義に基づき、昭和44年度以降の決算統計における普通建設事業費を取得価格とし、行政分野ごと(庁舎、保育所、道路、学校等)の耐用年数により減価償却しています。  
土地については、減価償却せずに取得価格により評価しています。

行政コスト計算書は、民間企業の損益計算書に相当するものですが、行政には利益という概念がないため、コスト(費用)と収入との関係をあらわしています。資産の形成につながらない、いわゆるソフト事業といわれる行政サービスに、どのくらいのお金を必要としたのかを知ることができます。行政コスト計算書には、市の職員に要する人件費や、建物などを維持していくための物にかかる費用のほか、実際に現金の支出を伴わない減価償却費なども含まれます。

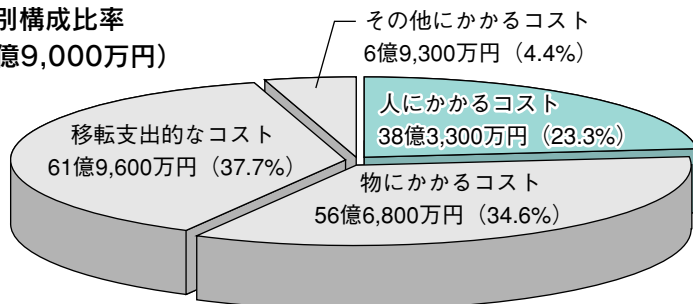
## ●行政コスト

性質別	コストの内容	行政コスト総額	市民一人当たり行政コスト
人にかかるコスト	職員の人件費、退職給与引当金繰入	38億3,300万円	6万9,000円
物にかかるコスト	物件費(賃金、消耗品費、光熱水費など) 維持補修費、減価償却費	56億6,800万円	10万2,000円
移転支出的なコスト	扶助費(生活保護法、児童福祉法等に基づくもの)、負担金・補助金、繰入金など	61億9,600万円	11万2,000円
その他のコスト	災害復旧費、公債費(地方債の利子)など	6億9,300万円	1万2,000円
合計		163億9,000万円	29万5,000円

## ●収入項目

項目	収入の内容	収入総額	市民一人当たり収入額
使用料・手数料等	分担金および負担金、使用料・手数料、財産収入、寄附金、繰入金、諸収入など	15億6,300万円	2万8,000円
国庫・県支出金	国庫・県支出金(資産形成に資するものは除く)	12億3,600万円	2万2,000円
一般財源	市税、地方譲与税、利子割交付金、地方消費税交付金、自動車取得税交付金、地方特例交付金、地方交付税など	142億3,200万円	25万7,000円
合計		170億3,100万円	30万7,000円
差引額	資産形成の財源として使用(収入-行政コスト)	6億4,100万円	1万2,000円

行政コストの性質別構成比率  
(コスト総額163億9,000万円)



## 行政コスト計算書の基本的事項について

- 対照となる会計の範囲……①一般会計 ②公団分収造林事業特別会計 ③霊園事業特別会計 ※以上3会計を普通会計といいます。
- 作成基準……総務省の作成基準に準拠し作成しています。
- 対象期間……平成15年度 平成15年4月1日から平成16年3月31日まで ※ただし出納整理期間中(平成16年5月31日)の現金の出入りを含みます。
- 資産の把握方法…昭和44年度以降の決算統計、決算書等を用いて算出しています。

### ◇普通会計のバランスシート

バランスシートからは、市がこれまで形成してきた学校や道路などの資産の状況と、資産の整備に必要なつたお金を負債としてお知らせすることができます。

昨年との比較では、資産総額で15億2,300万円1.8%の増となる87億4,700万円となりました。これらには、昨年度にオープンした総合福祉センターなどの資産が新たに含まれていました。負債は27億9,200万円となりました。

また、企業などで自己資本などと言われる正味資産は前年より4億200万円、0.7%増加の60億5,500万円となり、総資本に対する正味資産の割合を示す正味資産構成比率は68.6%となりました。前年度の県下全市の平均値は68.9%でしたのでほぼ平均値にあります。

### ◇行政コスト計算書

市民のみなさんへの行政サービスに要したコストは、平成15年度の1年間で、総額163億9,000万円となりました。このうち「移転支出的なコスト」が61億9,600万円(37.7%)で一番多く、次いで「物にかかるコスト」が56億6,800万円(34.6%)、「人にかかるコスト」が38億3,300万円(23.3%)となりました。市民一人当たりでは、1年間で総額29万5,000円を負担したことになります。

また、これら行政コストの財源となる収入は総額で170億3,100万円となり、差引6億4,100万円は資産形成の財源として使用しました。以上、バランスシートでは市の資産と負債の状況を、行政コストでは一年間の行政活動の結果を項目別にお知らせしました。

これからも、みなさんのご理解、ご協力により、健全な財政の維持に努めていきます。